

**ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
取組の概要と選定委員会からの主なコメント**

代 表 校 名 (連 携 校 名)	筑波大学 (東京医科歯科大学) 計2大学
事 業 名	地域医療の多様なニーズにシームレスに対応できるオールラウンダーの養成
事 業 責 任 者	医学群長 田中 誠
事 業 の 概 要	
<p>地域医療における医師の偏在は、地域全体を俯瞰する視点を持ち、地域医療で求められる多様な健康問題に柔軟に対応できる医師が少ないことが大きな原因になっている。そこで本事業は「地域医療の多様なニーズにシームレスに対応できるオールラウンダー」の養成を目的として、茨城県に地域枠を設置する2大学が緊密に連携し、地域医療においてニーズの高い横断的な領域として①地域医療、②総合診療、③緩和医療、④感染症、⑤難病・慢性診療、⑥救急医療の6領域を設定して、低学年から段階的に、現場での経験を通して学びを深める体系的な教育プログラムを導入する。地域での学修は、茨城県内すべての二次医療圏に設置された教育拠点に、80名以上の教員を配置している地域医療教育センター・ステーション制度を最大限に活用する。本事業により、地域医療のニーズに十分対応できる高い能力を備え、使命感を持って地域で働く医師を数多く養成することを目指す。</p>	
選定委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○オールラウンダーの6領域は包括的であり、また80名の教員も充実している。個と地域集団という二つの視点を含めたコンセプトから具体的な地域医療のプロバイダーを育成するミッションは、時節にも即した構想といえる。修了後のキャリアについても明確で、若者の不安は最小限と思われる。</p> <p>○茨城県という人口当たりの医師数が少ない地域背景にあり、多くの学生に対して、それぞれの分野で実績のある教室や指導医が対応し、医療の様々なニーズに対して、臨機応変に答えられる「オールラウンダー」を育てていく構想は本事業の目的と合致し学習方略も具体的に記載され、実効性が高い。</p> <p>○2大学のそれぞれの強みを活かすことで十分な数の体制が担保され、また医学教育カリキュラムの中央部門における役割は妥当と思われる。いずれも地域医療に実績のある大学であり、安定した運営が期待できる。</p> <p>○中高生向けへの情報発信を積極的に展開しているのは望ましい。</p> <p>●具体的のがんプロなどの経験をどのように活かすのかが記載されていない。Eラーニング・プログラムは数多あり、経験の活用もノウハウが蓄積されているため、車輪の再発明を避け、既存の知見から学び、独自に試行錯誤すべき部分を見極めることが必要である。</p> <p>●今までも、地域医療や総合診療に取り組んできているので、より強い新規性の高い取り組みが期待される。また、地域医療教育センターステーション制度が整備され、確実に機能することが望まれる。</p> <p>●この事業は文科省の補助事業であり、全国の地域枠教育に横展開を図るべき事業であるにも関わらず、その視点が欠落しているように感じられるのが残念である。</p>	